



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

鷹山作品の購入資金を寄贈

設立十周年記念事業として 16年度通常総会席上で贈呈



通常総会後鷹山ひばり館長に目録を贈呈

数の皆様のご協力により増加しております。今回、平成17年度からの会員規定を改正し、より幅のある会員募集が可能となりました。これまでに以上にご協賛の皆様に喜ば

る友の会として役員一同様々な企画をしております。さて、今回の総会の席上でご来賓の鷹山ひばり館長に対し、友の会がこれまで毎年積み立ててまいりました絵画購入指定寄付金百万円を贈呈致しました。美術館では、これまでの友の会の贈呈資金などを積み増しし、作品購入基金としておりますが、この度の基金を活用して購入するにふさわしい鷹山先生の作品の引き合いがあり財団法人での慎重な審議を経て美術館収蔵作品として購入することを決定しております。総会では出席した会員にこの2点の作品を披露致しました。

鷹山館長からは、「寡作な作家である鷹山の作品は市場に流通する機会が少なく、どの作品も得難いものです。今回私たち家族にとっても思い出の深い絵画を美術館に収めることとなり心より感謝申し上げます。」との謝辞をいただきました。

平成16年6月6日

会長 山本洋一

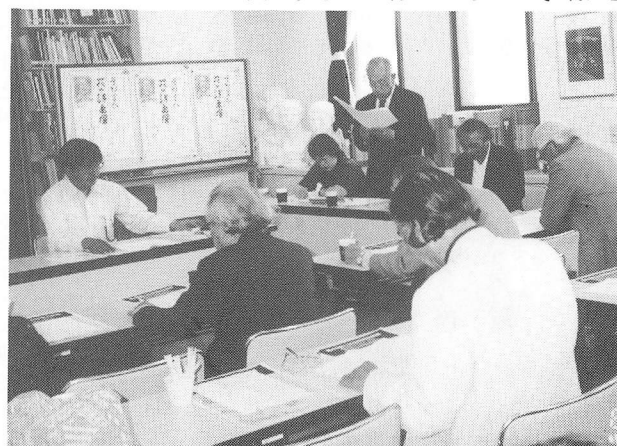
会長あいさつ
平成6年11月の設立から友の会も10回目の総会を開催することとなり、会員の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。
この度の総会において、再

び会長職をお引き受けすることになりましたが、変わらぬご支援、ご協力、率直なご意見をお寄せ下さるよう心よりお願い申し上げます。
総会の資料につきましては別添のとおりですが、会員

友の会ではこれまでに設立十周年記念事業として、美術全集の寄贈・美術講座の連続開催・イタリア美術研修旅行・絵画購入資金の積立などの事業をこの2年間にわたり実施してまいりましたが、さらに十周年記念特集号の発行などの準備を進めております。

設立十周年という節目を刻み、新たな歩みを始めます。鷹山宇一記念美術館友の会に対して、今後とも会員の皆様のお力を賜りますようお願い申し上げます。

設立十周年の節目の年を迎えた、鷹山宇一記念美術館友の会の平成16年度通常総会が、6月6日(日)美術館2階工房において開催されました。
総会では提出された全議案が原案どおり承認され、さらに審議の終了後友の会設立十周年記念事業の一環として絵画購入資金の贈呈が行われ、併せて購入予定作品が披露されました。
また総会後、青森県立郷土館の学芸主幹對島恵美子さんを講師にお迎えして、美術講演会「レモンの画家・小舘善四郎」を開催いたしました。
小舘先生の奥様のご出席をいただき参加者は意義深い研修の場を持つことができました。



通常総会にて

柳宗悦の民芸と巨匠たち展

立佞武多の館の旅

たまげた立佞武多

七戸町／山田 慶子

6月13日、鷹山ひばり館長の笑顔のお見送りを頂き、いざ津軽路へ。総勢38名、満席での出発となった。青森市を抜けると、少しづつ南部とは違う風土が見え隠れしてくるが、田んぼや林檎園の中に町や村が点在しているからなのだろうか。岩木山が姿を現すと尚更に、あ々津軽だとい。

2時間ほどで五所川原市に到着。「えっ、もう着いたの」と何人かが。お喋りが愉しかったからに違いない。

立佞武多 千空

今生を燃えよと鬼の

佞武多来る 千空

立佞武多への讃歌だと思

いました。そして中へ、思わずのけ反ってしまいました。なんと、てっぺんが見えない!

エレベーターで4階迄昇り、そこからゆるゆると降りながらその全容を見られるようになってい

るが、お囃子も底流に哀調を帯びつつ躍動感にあふれ、聞きしに勝るとは

行くことに。自由鑑賞ということであったが全員参加、「日本画壇巨匠展」を観せて頂きました。

オーナーの奥様と覚しき素敵な方の説明付き、その上に何と入場料40%引きとは!

さり気無い置物の数々、小さな花たち、小鳥の擬音も心地よく、感謝でした。

絵の鑑賞の仕方などわからない私ですが、「さくら・桜展」の余韻が未だ残っているせ

いか作者名は忘れましたが「醍醐の桜」に魅せられました。

昼食をはさみ一時間弘前に向けて出発、市立博物館前にて記念撮影後「柳宗悦の民芸と巨匠たち展」を鑑賞した。私にとつては大原美術館で観て以来ウン十年振りの巨匠たち展でしたので本当に嬉しいことでした。



▲立佞武多の館ホールにて記念撮影

それぞれ思いの歩調となった約一時間はあつという間に過ぎ、3時半すつきりと男ぶりよき岩木山に見送られ津軽を後にした。車中、ご案内役の盛田さんより、「浪岡の道の駅に立ち寄ることにしました」とのこと。美術鑑賞の貌から、俄に主婦の顔に立ち返りての買い物タイムを済ませ、一路七戸へ。参加者全員満足度120%のいい顔をお土産に、館長のお出迎えに応えたようです。ひばり館長が一緒だったら、と返す返す残念に思いました。お世話役の方々ありがとうございました。

美術講演会を開催

「レモンの画家・小館善四郎」

講師 青森県立郷土館

学芸主幹 對島恵美子氏

友の会総会終了後に開催した美術後援会では、「私は、絵筆の世界の、あの明快さに従いたい」と願ったというレモンの画家・小館善四郎の誕生から画風の変遷などを多くの映像を使って解説していただきました。

對島さんは、「小館先生が武蔵野美術学校時代に二つの出会いがあった。一つは、天才少女バイオリニストと呼ばれた諏訪根自子との出会いであり、

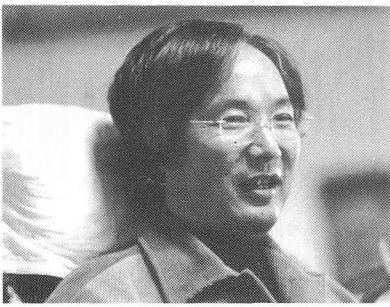
『赤衣少女』として作品表現され、その後もこの作品自体を取り入れた作品群を発表している。もう一つは、梶井基次郎の短編小説「檸檬」との出会いであり、この小説から受けた感銘は、なんと十数年の熟成を経て戦後に作品として表現

されることになり、1個の檸檬が画面中の重要なポイントをなし、『レモンの画家・小館善四郎』のネーミングを確固たるものにしていく。」などと小館善四郎の初期作品から晩年の穏やかな写真の時期までを丁寧に解説し、作品鑑賞のヒントを与えて下さいました。

小館先生とかかわりのある方々も多くご出席されたこのたびの美術講演会でした。



▲講演中の對島恵美子氏

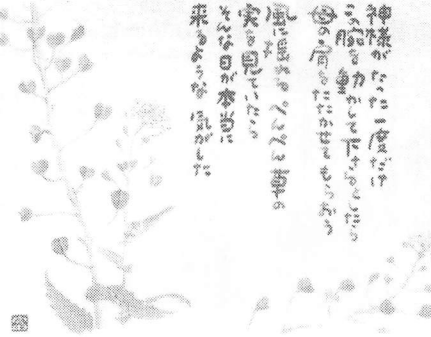


▲星野富弘さん近影

中学の体育教師だった星野富弘さんが、人生を大きく変える事故に遭遇したのは、生徒たちに器械体操の模範演技を見せていたときでした。
頭からの転落、一瞬の出来事が星野さんの身体に肩から下の全身麻痺という障害を残しました。24歳の時です。
動けない苛立ちや将来への不安にさいなまれながら、星野さんは「生きること」と真剣に向き合い、入院生活を送るうち、口

●星野富弘展 Information●
入館時間/10:00~17:30
(閉館は18:00)
※8/1(日)は開館記念日につき時間を延長し、閉館は20:00となります。
※最終日8/21(土)は入館14:00迄、15:00閉館となります。
入館料/一般800円、学生400円
小中学生200円
※前売券・20名様以上の団体は各2割引
友の会会員の皆様は特典通り
※会期中は無休です

にくわえた筆で文字や絵をかきはじめたのです。



▲「べんべん草」

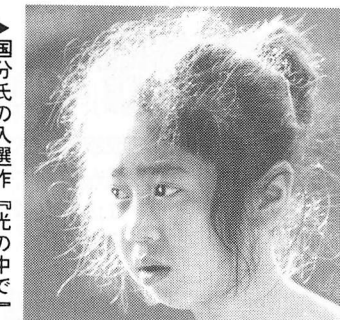
そのきっかけは、転院した中学生をはげまそうと「寄せ書きをしたい」と思ったことから、その想いを書きえたのは「点」がやつとだったそうです。これをスタートに、頭を上げることさえ苦痛の日々ながら努力を重ね、周りの人々のやさしさに包まれて、星野さんの筆は心の深いところに届く「絵と詩」を創りだすようになりました。
今展では、水彩画80点、ペン画20点に加え、展覧会ではあまり日の目を見ることがなく美術館の収蔵室に保管されているスケッチブックなどのパネルや、好評を得たNHKの番組も上映いたします。
ご観覧いただいた方には、おおよそ人間が持ち得る限りの強さとやさしさ、そして生命への温かいあつくしみを感じていただけることと思います。

お慶びをもちまして
8月1日開館10周年！

特別展「生かされている喜びと感謝」
7月17日(土)
↓8月21日(土)
星野富弘「花の詩画展」開催
会期中は無休

秋の特別展

第64回国際写真サロン展
9月2日(木)~9月12日(日)



▶国分氏の入選作『光の中で』

国内で最も権威ある写真コンテストとして知られる「国際写真サロン」から、最高賞「審査委員特別賞6点を含む入選全130点を紹介、また今展へは、青森県から16年ぶりの入選という快挙を果たした十和田市在住の全日本写真連盟十和田支部長・国分光明氏の作品も出品されます。
国内外、プロ・アマ問わず、人物・風景・演出写真などなど、写真表現の可能性に挑んだ多彩な作品の数々を是非お楽しみ下さい。

美術館日誌

【3月】

- ◇ひな祭りにつき女性限定入館無料と甘酒のサービスを実施(3日)
- ◇七戸小学校6年生を対象に移動美術館を開催(5日)
- ◇美術館アートクラブ「絵を描こう(番外編)」開催(6・7日)
- ◇美術館2階工房に於いて火曜サロン開催(9日)
- ◇五戸町文化財審議委員12名様視察(12日)
- ◇鷹山館長七戸中学校卒業式に出席。七彩会油絵教室開催(14日)
- ◇「世界の蘭展」バスツアー開催(21・23日)
- ◇財鷹山宇一記念美術振興会平成16年第1回理事会・評議員会開催(27日)

【4月】

- ◇七彩会油絵教室開催(4日)
- ◇東奥日報社十和田支局美術館開館10周年について取材(6日)
- ◇鷹山館長七戸中学校入学式出席(7日)
- ◇十和田新報社開館10周年及び「さくら桜展」について取材(8日)
- ◇鷹山館長「さくら桜展」チラシ配布依頼のため、友の会会員の佐藤昌寛郎氏の案内で弘前市教育委員会訪問(13日)
- ◇六戸町小中学校教師会で鷹山館長講演(16日)
- ◇七彩会油絵教室開催(18日)
- ◇美術館アートクラブ「春を描こう」を開催(17・18日)
- ◇鷹山館長「さくら桜展」チラシ配布依頼のため三八地区教育委員会訪問(17日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(20・23日)
- ◇「さくら桜展」オープニングレセプション開催(23日)
- ◇「さくら桜展」初日(24日)
- ◇茶道裏千家七戸会によるお茶会開催(25日)
- ◇七戸小学校6年生来館(30日)



【5月】

- ◇七彩会油絵教室開催(9日)
- ◇妙水苑「デイサービスセンター」10名様来館(11日)
- ◇若葉養護学校「一行様来館。県民カレッジ会議に館長出席於上北教育事務所」(13日)
- ◇美術館アートクラブ特別講座「原っぱ染色」開催(15・16日)
- ◇東北電力プラサの会で鷹山館長講演(18日)
- ◇七戸中央公民館講座「ふるさと伝統さがし」で鷹山館長「父・鷹山宇一を語る」と題して講演、受講者ご一行様来館(23日)
- ◇美術館アートクラブ「金工」開催(22・23日)
- ◇鷹山館長七戸町観光協会総会出席(25日)
- ◇「さくら桜展」入館者一万人達成。鷹山館長七戸町ふるさと振興会総会出席(28日)
- ◇「さくら桜展」最終日。七彩会油絵教室開催(30日)

「イタリアルネサンス美術紀行」 ご参加の皆さんからのお便り

前号に引き続き、イタリアルネサンス美術紀行に参加された会員の寄稿を掲載します。

今後も海外美術紀行を企画してまいりますので、皆様のご意見、ご要望をお寄せ下さい。

水の都 ヴェネチア

七戸町／野田 治夫

朝ヴェネチアへ向かうため、ローマのレオナルド・ダ・ヴィンチ空港へ到着した。しかしヴェネチア行きの飛行機は、前の空港で雪のため立ち往生しているとの事だった。幸い、一つ前の便に搭乗することが出来て事なきを得た。

飛行機は白い山脈を越えて、11時10分、霧のマルコポーロ空港へ到着した。

ヴェネチアは車もバイクも入ってはいけない街であり、水上タクシーを使用しての移動であった。物資の輸送ももちろん船での運搬であった。従っ



▲ヴェネチア・サンマルコ広場を散策

当日の宿はサンマルコ広場にほど近い15世紀の建物であった。部屋も通路も狭く、入り組んだ配置で決して使い勝手がいいホテルとは言い難かった。しかし、家具にしる調度品にしる風格を感じさせるもので統一され、ヴェネチア

て物価は高く、他の町の倍以上は覚悟しなければならなかった。

ガラス工場であまりの高さに「少し負かりませんか」と言うと、今まで流暢な日本語で説明していた彼が「私、日本語わかりません」と言う。ではと英語で訪ねると、今度は「私、英語もわかりません」と言う。まるでシャイロックまがいの人物もいたりで苦笑させられた。

しかし、ヴェネチアの街のたたずまいはさすがに風情有り、見ごたえの有るものだった。サンマルコ寺院はヴェネチアが強大な勢力を誇っていた頃、あちらこちらからの戦利品で建てられたものだという。従って、柱も彫刻もまちまちではあったが、いい物だけをふんだんにつぎ込んだ贅沢な寺院であった。

ドゥカレ宮殿は、ヴェネチア共和国大統領の執務の場所でもあり、国会議事堂でもあり、裁判所でもあり、牢獄でもあるという不思議な機能をもった建物であった。

黄金の階段をはじめ、謁見の間・元老院議事堂・裁判所も、天井はカメオ風の彫刻に惜しみなく黄金を施した絢爛豪華なものだった。

の宿にふさわしかった。翌日はヴェネチア共和国時代の美術品を一堂に集めたアカデミア美術館を最後に、うつつらと雪をかぶった水上タクシーでヴェネチアを後にしたのであった。

ベローナ ミラノ

七戸町／新田 純治

旅も後半となりバスの発着所までのヴェネチア最後の小さな船旅を楽しみ、バスで霧の中をミラノへ向けて出発しました。

2時間位走ったら突然目の前に大きな街が飛び込んできました。この街が世界で一番有名な悲恋の街といわれる「ベローナ」でした。1時間程で昼食を終え、イギリスの文豪シェークスピアの作品で最も有名な「ロミオとジュリエット」の舞台となった「ジュリエッタの家」を見ました。あのバルコニーも残っていました。市内見学を終え、沈もうとする夕日を追いかけるとミラノへ向かいま

ルに泊まりました。ルネサンスの芸術が優美に花開き、ダ・ヴィンチが「最後の晚餐」を残した街「ミラノ」の観光です。最初は「サンタ・マリア・デレ・グラツィエ教会」です。ダ・ヴィンチが描いた「最後の晚餐」がある教会です。その昔、食堂だった広間の一方の壁を占有している「最後の晚餐」の实物は大変見ごたえのある作品でした。



▲ミラノにてイタリア美術紀行「最後の晚餐」

次はミラノのルネサンス期最大の宮殿「スフォルツェスコ城」でした。現在は彫刻・絵画・工芸品などを展示する美術館・博物館になっています。城の裏側の「センピオーネ公園」を少し歩き、中世の人になった気分です。スに乗り「ドゥオーモ」へ行きました。イタリア最大のゴシック様式の建造物で完成まで500年を費やしたというだけあって、繊細な尖塔が荘厳な雰囲気を出していました。「ヴィットリオ・エマヌエレ2世アーケード」を抜け、オペラで有名な「スカラ座」の前を

通って「ブレラ美術館」へ行きました。ルネサンス期を中心としたイタリア絵画が、年代別・流派別に展示され、たくさんのお土産が飾られています。その後は買い物や「ドゥオーモ広場」の散策などでイタリア最後の観光・見学の日程は全部終了しました。

夕食はバスで街のレストランへ行き、我々の観光「最後の晚餐」を食べました。明日は日本へ帰る日です。

アリヴェデルチ

ミラノ!

アリヴェデルチ

イタリア!

小川敏雄さんのイタリアスケッチ



▲ Firenze 協会の見える公園の朝



▲ Pisa ピサの斜塔



▲ Milano ビットリオ・エマヌエレ二世アーケード入口



▲ Colosseo - Roma

友の会会員登録の更新と 新規会員入会お誘いのお願い

前回のお知らせで更新及び新規入会の手続きをして下さいました会員の皆様、誠にありがとうございました。16年度も会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんで頂けるよう、研修旅行、講演会などを企画してまいります。今後とも、友の会並びに美術館の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、更新手続きがお済みでない会員の皆様には、ぜひ今年度もご継続下さいませようお願い申し上げます。ご更新、新規ご加入の手続は、美術館窓口、郵便振替用紙による方法にて随時受け付けております。会員の種別、会費、特典につきましては、16年度はこれまでと同様です。詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

◆秋の研修旅行の ご案内◆

◇「よみがえる四川文明」
三星堆と金沙遺跡の秘宝展
◇七尾謙次郎展

6月6日の総会において
今年度第2回目の友の会研
修旅行が決定致しました。

来る11月23日(火・祝日)
青森県産業会館の「よみが
える四川文明」三星堆と金
沙遺跡の秘宝展」と青森県
立郷土館の「七尾謙次郎展」
を訪ねます。

詳しくは、後日ハガキに
てご案内します。

ボランティア募集!

7月17日から開催される星野富弘展は、たくさんの方の入館者が見込まれ、車いすの方も多いと予測されます。スロープや段差での介助ボランティアや、インフォメーションサービスにご協力戴ける会員の皆様を募集しています。ご都合の良い日時を美術館にお知らせいただければ幸いです。

※期間は平成16年7月17日から8月21日まで

※詳細は美術館までどうぞ ☎ 0176-62-5858

◆編集後記◆

★会報第34号6頁「イタリアルネサンス美術紀行」小泉さんの「ナポリポネペイの旅」のお便り冒頭、「フイレンツェのホテル」と掲載しましたが、正しくは「ローマのホテル」でした。記事編集の間違いによるもので、お詫びして訂正致します。

★「春光うらら さらさら桜展」は大盛況のうちには終了。美術館にとつて、うれしい春でした。期間中に友の会の新会員になって下さった方も多く、これまたうれしいことでした。監視ボランティアをしていただいた会員の皆様お疲れ様でした。

★平成16年度友の会
通常総会・美術講演会・
春の研修旅行が無事に終
了。会員の皆様のご協力
に感謝します。

★美術館に入ると様
々な雑事を忘れ、すがすがしい気持ちにさせてく
れます。昨今の殺伐とし
た世相、世界の状況を見
ると、こんな時代だから
こそ美術館の役割が大
事だなぁと考えるながら、友
の会のお手伝いをしてい
ます。

編集係 E-T